

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 2013年 3月 31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4677100168号
法人名	有限会社 健やかクラブ
事業所名	グループホーム元気
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5340-2 (電話) 0994-31-0161
自己評価作成日	平成25年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・厨房担当者を2名採用し、介護職員の負担軽減を図ると共に、栄養士にカロリー計算をお願いし、栄養が偏らないように工夫を凝らしている。

・広い敷地を利用して利用者と共に家庭菜園を作り、草取りから収穫など共働している。さらに収穫した野菜等は毎日の料理に活用している。園芸療法も取り入れ種まきから育苗まで花づくり等にいそしんでいる。更に地域の方々にもお裾わけが出来喜んでいただいている。

・個々の生活レベルに焦点を置き、強制することが無いようにし我が家のごとくゆっくりと生活できている。

・歯科衛生士の指導のもと、個々の食後の口腔ケアがしっかりと対応できている。

緑豊かな田園地帯の中に位置し、広い敷地の花壇や菜園は利用者と職員が共に育てた花や野菜があり、種蒔きから収穫までを共に楽しんだ様子が伺える。

職員には栄養士と歯科衛生士の有資格者がおり、それぞれ栄養管理と歯科衛生管理に携わっており、栄養バランスに配慮した豊かな献立作りから利用者の食の楽しみに繋がり、さらには口腔ケア管理にも繋がり、職員一同のきめ細やかなサービスで質の向上が感じ取られる。

職員と運営者との関係も十分な信頼関係が築かれ、ホーム内は明るく活気に満ちている。職員の利用者への思いが質の高いサービスへと繋がり、その思いがホームの名の通り、利用者一人一人の「元気」を引き出す役目となっている。

ホームは災害時には地域の避難場所の指定を受けるなど、地域密着型のまさに地域に根ざした温かな明るいホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時の際、職員で唱和し業務に従事している。月1回の職員会議でも理念の再確認をしている。	理念は玄関に掲示されている。設立以来の「心こそ大切なれ」を朝のミーティング時や職員会議でも唱和し、全員で理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの催し物の時は、招待状を配り参加を呼びかている。町内会の夏祭りや敬老会等招待を受け参加している。また、節分の日などは手巻き寿司等近隣にお裾わけしている。	町内会へも入会しており地域の行事への招待を受け参加し、また事業所の夕涼み会や行事には招待している。ボランティアの受け入れも多く地域の一員として交流は出来ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣住民の方々がいつでも立ち寄れるよう、普段から声かけしている。又、子供110番の委嘱も受け地域貢献に寄与している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、サービスの状況報告し、会合での意見等参考にしサービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催し、地域代表・家族会・行政などから参加がある。避難訓練の行事と重ねて開催すると参加者も多く、消防団や駐在所などそれぞれの立場から意見を聞くこともある。会議で出された意見・要望を参考にサービスの向上に活かしている。	

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長及び管理者を始め事務長が行政に出向いたり、メール及び電話での連絡等情報交換を行い、サービスの取り組みに努めている。又運営推進会議にも参加して頂き意見を聞いている。	行政では介護福祉課と常に連絡を取り合っている。地域包括センターへも連絡を取り、情報交換を行っている。運営推進会議にも参加をもらうなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊が出てもすぐに対応できるように玄関等にチャイムをつけた。身体拘束をしないように目配り気配りを行っている。やむを得ず拘束しなければならない状況が発生した時は、必ず身体拘束廃止委員会を開催し、経過記録を記入し家族の同意を得ている。	職員会議の中で研修をしている。やむを得ず拘束する時には 主治医の指示を受け身体拘束廃止委員会で話し合い家族の同意をもらい、経過は記録を取っている。日中は玄関には施錠はせず、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市単位の研修会及びグループホーム協議会等の研修会に職員が交代で参加し、職員会で研修報告し全員が共有できるようにしている。又、職員会で勉強会をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村単位の研修会や事業所内研修で学びながら、研修参加者の報告会を開催し情報を共有している。		

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明時に文書を持って運営理念や介護方針等丁寧に説明をしている。退去時は各機関と連携し家族の方が安心できる体制をつくっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口相談を設置している。いつでも対応できるように体制をとっている。	家族会を年2回開催し意見・要望を聞いている。また通常面会時や運営推進会議でも対応している。県外の家族には電話などで意見・要望を聞いている。職員は出された意見・要望を共有し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回もしくは不定期に開かれる職員会議の中で意見等を聞き運営に反映している。又、申し送り帳を活用している。	毎月の職員会議は日中することで全員参加になっている。申し送り帳の活用で意見・要望を聞き取り運営に反映している。運営者と職員の信頼関係は築かれいつでも相談できる雰囲気である。職員の資格取得の支援体制もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を多く取り入れ、休暇等も要望に沿っている。更に介護職員処遇改善交付金を利用し各手当や賃金のアップ等を計りながら、働きやすい環境をつくっている。		

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加、内部研修への参加の中、個々のレベルアップに努めている。又、個々の相談にも応じながら各自の向上にも努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会主催の研修会で相互間の意見交換等を実施しながら、各自のサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面接時、優しい言葉遣いと態度で接し、不安感を与えないようにしている。出来る限り本人の要望を受け入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に安心感を与える為に丁寧な言葉使いと優しい態度で接し、安心して家族を入所できるように心掛けている。家族の要望も受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の生活歴等の情報を収集し、他の関係機関との連携を図ってサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、強制することなく、コミュニケーションを心がけ、趣味やレク・洗濯物の整理や台ふき等共に生活する者として協力し助け合うことに努めている。		

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆や正月などの一時帰宅や外泊を負担のない限り協力をいただいている。外出や通院なども協力をいただきながらホームの行事等にも参加頂き、ホーム便り等も送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外出、外泊できるように開放している。	外出や外泊は本人本位に対応している。友人・知人やなじみの関係で面会に来られる方もいる。墓参り・理美容室またなじみの場所での買い物など家族の協力を得ながら連れて行き、なじみの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物を干したり・畳んだり、レクに参加をしたりしながら、歩行の可能な方は車いすを押して運動したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族への電話や暑中見舞いや年賀状などこまめに連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中や家族からの情報などで希望することなどを聞いている。（買い物・食べたいもの・したいことなど）	利用者本人の意向に添えるよう努めている。困難な場合はアセスメントの活用や表情、家族からの情報から思いや希望の把握に努め、職員間の気付きの共有で本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにして、入所するまでの生活歴を重視して、ケアカンファレンスを開催して、サービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送り帳に記入している。毎月の職員会議や緊急のミーティング開催している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて具体的にケアプランを作成している。必要に応じてスタッフ会を開催しより良いケアができるようにしている。	モニタリングは3ヵ月に1回実施している。担当者会議には主治医・本人・家族など関係者が参加しそれぞれの意見を反映し介護計画を作成している。計画書は利用者の部屋に置いてあり、職員は確認しながら計画書に沿った支援を行っている。	

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人の介護記録を毎日記入し、更に申し送り帳を利用してスタッフ全員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び御家族の希望や要望を受け入れてホームの特性を生かし1人1人が自然な形で持っている地価を發揮して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が手品や舞踊・三線演奏など来ていただき楽しみながら生活できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時を含む24時間体制で医療連携が確保されており、月2回のDrの供託療養管理指導で貞節な医療受診を支援している。	入居と同時に、月2回の居宅療養管理指導の医療受診や緊急時を含む24時間体制の医療連携のとられているホームの協力医療機関に変更を希望される家族が多い。他科受診は主治医の診断書をもらい家族や職員が同行している。定期受診は家族へ報告している。	

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタルチェックや介護記録をもとに、異常があればその都度Dr又は看護婦の指示を仰ぐ、必要があれば往診や受診をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>連携医療機関を確保しMSWと連絡を計りその状況をきいている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>連携医療機関のDr 及び家族等と普段から話し合い全員で共有している。</p>	<p>終末期の方向性についてホームの指針を明文化した「重度化、終末期について」を入居時に説明し同意書を交わしている。身体状況の段階ごとの変化に応じ、家族や主治医の意向を確認しながら対応の方針を共有している。すでに看取りの経験があり、「ここが我が家」と家族に言って貰えるほど、ホームで出来る終末期における最大限の支援を実践し、取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の協力を得てホームでの研修や、外部研修に参加して初期対応の訓練を実施している。又、緊急連絡網も掲示しいつでも連絡が取れるようにしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応策マニュアルを作成して周知徹底を図っている。消防署及び地域消防団長や地域住民の参加を得て、年2回避難訓練等も行っている。	夜間想定も含め年2回、消防団の指示のもと地域住民の参加もあり、避難経路の再確認・利用者の誘導・消火活動など避難訓練に取り組んでいる。屋外に赤色灯を取り付け夜間などの緊急時の地域住民との連携も見られる。災害を想定しての備蓄や備品も確保済みである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人と接することが苦手な人、口下手な人など無理強いせず、居室で過ごしてもらったり、スタッフの声かけで安心して生活できるようにしている。	職員は研修を受け内容を共有している。名前の呼び方や話し方には気を配っている。職員間でも注意し合い、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの出来事に声かけし、御礼や、好みのおかずや食べ物など希望を聞いたり、行きたい所など聞きそれに応えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に散歩や外出フロアでくつろぐなど、様々なスタイルが保てるよう各個人のペースを大事にしている。レクリエーションの実施や歩行訓練・可動域訓練等を実施し筋力の維持に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分の意思表示ができる方は、衣類の行為等の時は自分で選んで頂く。女性の方はマニキュアなどつけてもらったり、爪切り・髭剃り等出来ない方はスタッフが対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みの食べ物を聞いたり食事の手伝いや片づけなどお手伝いして頂いている。又、外食等も皆で参加している。	栄養士を配置しており、利用者の好みも考慮した献立を作っている。利用者は日々の食事を楽しみにしており完食が殆どである。可能な利用者には下膳や食器洗いなど手伝ってもらっている。全員参加の外食や日光浴を兼ねたウッドデッキでの食事など変化を持たせ、楽しく食事ができるように支援している。	

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を中心にカロリー計算を行い、目標量を摂取できるように努めている。水分摂取時はその都度記録し、必要に応じて補給して頂き、体調に応じて、おかゆや刻み・トロミ等個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の資格を持つスタッフを中心に、起床時のうがい、食事前のお茶でのうがい、食後の歯磨きうがい・義歯の清掃消毒など実施しかかりつけの歯科医との連携も取っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつは使用していない。各個人の排せつ時間を記録し、時間を見計って声かけし、トイレ対応に努めている。夜間も同様時間で声かけてトイレ誘導を実施している。	個別に排泄チェック表を作成しておりパターンを把握して、動きやサインを職員間で共有し適切な声掛けで自立に向けたトイレでの排泄支援を行っている。8割程の利用者が尿意を感じることができ自立に向かっている。失禁時などさりげない対応を心掛けシャワーなどで常に清潔保持を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や植物繊維食品を食事に取り入れたり、適度な運動を行ったり、処方された下剤などをを用い排便コントロールに努めている。		

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴時に個々のタイミングで声かけし、希望の時間帯に楽しんで入浴できるよう支援している。	週3回の入浴を支援している。時間帯や順番は利用者の希望に添えるように配慮している。入浴をためらう利用者に対しては時間を変更するなどタイミングに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の生活習慣を把握し、その日の状況で居室なり和室の畳での昼寝などゆっくりとして頂きながら、眠剤の必要な方は処方に従い安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルにし1回分づつ薬局にて分包して頂き、服薬確認症状の変化確認に努めている。又、薬剤師による服薬の基礎学習をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除時に歩行可能な方は自分の居室の掃除をしていただいたり、家電の手入れや草取りなどもして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、短時間ドライブなど実施したり、スタッフと共にスーパーにお買い物に行ったりしている。	気候に合わせてテラスや庭で外気浴やお茶を楽しむ機会を作っている他、日常的に近隣の散歩、買い物や往復30分位の短時間ドライブや希望があれば本人の行きたい場所など出来るだけホームに閉じこもらないように、外出支援している。	

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの方がおかねは所持していない。必要に応じて使うときはホームで立て替えて使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々に応じて自由に電話出来る体制をとっている。ダイヤルしてから本人に手渡すなどしている。スタッフ協力のもと年賀状や暑中見舞い状を家族に出せるようしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々に貼り絵・ひな飾り・かぶと・鯉のぼり等掲げたり、メニューなどにも取り入れ視覚・味覚で感じて頂いている。</p>	<p>車イス対応に配慮された広々とした空間のある造りになっている。落ち着ける畳の間は吹き抜けで明るく開放的で、ウッドデッキへ繋がる造りになっている。リビングの壁には年中行事の利用者の笑顔の写真や季節の花を飾るなど季節感を大事にした工夫もなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール内にソファを設置したり和室に畳の間を設けてあり利用者同士自由に過ごされるようにしてある。</p>		

鹿児島県 グループホーム元気

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者1人1人使い慣れた生活用品が持ち込まれている。	板張りの床に畳を敷いて一人の時間を楽しむ方やなじみの家具や思い出の写真、飾り物など使い慣れたものを配置され安心感がありゆったりくつろげ利用者が居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも利用できるようにスペースを広くしている。又、あしの不安定な方でもホール内や居室にも手すり等を設置し自立した生活ができるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム元気

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム元気

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない